

環境情報学研究科の井出将弘さんらが情報処理学会「インタラクシオン2023」で論文賞を受賞

2023年3月8～10日に情報処理学会「インタラクシオン2023」が一橋記念講堂で開催されました。本イベントは、ヒューマン・コンピュータ・インタラクシオン研究領域に関わる5研究会の年次大会として開催されました。本研究領域は、人とコンピュータの関わりを研究する分野で、工学、心理学、社会学をはじめとする多種多様な分野からなる学際的領域です。本イベントでは、査読を経て採択された11件の登壇発表があり、そのうちの1件だけに与えられる論文賞を、環境情報学研究科博士後期課程所属の井出将弘さんを含む本学の総合研究所・未来都市研究機構・ソーシャルVR研究ユニットの研究発表「3次元バーチャル空間におけるインフォーマルな会話の開始を促すためのゲイズキューの可視化手法」が受賞しました。本研究発表では、バーチャル空間での視線の可視化により、偶然の何気ない会話を誘発する技術を開発し検証しました。偶然の何気ない会話は、しばしば課題解決のヒントやイノベーション創出のきっかけとなるため重要なコミュニケーションと考えられています。



国際会議ICAPPS 2023において環境情報学専攻博士後期課程5年のカルキシャラダさんがBest Paper Presentation Awardを受賞

2023年8月17～19日にダナン建築大学にて開催された国際会議 ICAPPS (International Conference of Asian-Pacific Planning Societies) 2023において、環境情報学専攻博士後期課程3年 (D5) のカルキシャラダさんが、「Importance of Socio-economic Diversity for Farmers' Ecosystem-based Disaster Risk Reduction: Community-based Flood Risk Mitigation in Terai, Nepal (農家による生態系を基盤とした災害リスク緩和における社会経済的な多様性の重要性～ネパールの低地地域におけるコミュニティベースの洪水リスク緩和～)」というタイトルで研究発表を行い、若手研究者ならびに学生の優れた発表に対して贈られる Best Presentation Award を受賞しました。



シャラダさん受賞報告

進化計算コンペティション2023において大谷研所属の堤君と岡村君が準トップ賞を受賞

進化計算学会主催の進化計算コンペティション2023において、大谷研究室所属で環境情報学専攻博士前期課程2年の堤創一朗君、同所属で情報システム学科3年の岡村和哉君のチーム「penguin」が、単目的部門で準トップ賞を授与されました。進化計算コンペティションは、進化計算の実応用と産学交流を促進するために、2017年に始まった最適化コンペティションです。これまでのコンペティションでは、製造業、航空宇宙、ゲーム、行政、交通などの分野における最適化問題が出題されました。第7回となる今回は、自動化が進んだ製造工場における機械加工スケジューリング問題が対象でした。単目的部門と多目的部門があり、各部門で評価の高い解を導出したチームにトップ賞、準トップ賞が授与されます。penguinチームは単目的部門において15チーム中2位のスコアでの受賞となりました。



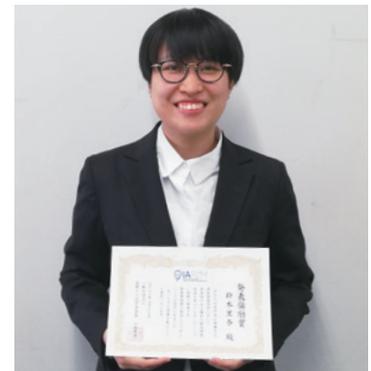
堤創一朗君と岡村和哉君



発表の様子

国際P2M学会研究発表大会にて環境情報学研究科・環境情報学専攻の鈴木里奈さんが発表奨励賞を受賞

2023年4月22日に本学横浜キャンパスにて開催された第35回国際P2M学会研究発表大会にて、環境情報学研究科・環境情報学専攻・博士前期課程2年の鈴木里奈さんが、「ビジネスモデル変革プログラムにおけるビジネス環境シミュレータ構築法の検討（第2報）—ステークホルダー別判断ロジックの組み込みとシミュレーション実験への適用—」を発表し、発表奨励賞を受賞しました。この賞は、学生発表だけでなく一般発表の中から選出されたものです。この研究では、宅配便ビジネスを例題に、宅配便企業とその競合企業、顧客としてのEC企業（Amazon等）、ビジネスパートナーとしての個人配送事業者の判断（意思決定）ロジックをビジネス環境シミュレータに組み込む手法を提案しました。更に、この研究内容は、複数の匿名査読者のコメントに基づき加筆修正を加え、国際P2M学会誌に採録されました（2023年10月）。



鈴木里奈さん

日本経営システム学会全国研究発表大会にて環境情報学研究科・環境情報学専攻のPabitra Chaudharyさんが学生研究発表優秀賞を受賞

2023年5月21日に開催された日本経営システム学会第70回全国研究発表大会にて環境情報学研究科・環境情報学専攻・博士後期課程2年のPabitra Chaudharyさんが、「Trends of Business Model Studies for Developing Countries」を発表し、学生研究発表優秀賞を受賞しました。Pabitra Chaudharyさんはネパール人留学生で、祖国の経済発展に寄与できる新たなビジネスを上げたいと考え、ビジネスモデル研究に取り組んでいます。本発表はその第一歩として、発展途上国のためのビジネスモデル関連論文414件を体系的にレビューした結果について発表したものです。その後、2023年12月に国際会議にて発表した、一連のビジネスモデル分析手法を体系的に用いて発案したネパールの新たなビジネスモデルの提案は、学術誌 IIAI Letters on Business and Decision Science 誌に採録されました（2024年2月）。



Pabitra Chaudharyさん

日本システム・ダイナミクス学会JSDカンファレンスにて環境学部・環境経営システム学科の岡田公治教授が優秀発表賞を受賞

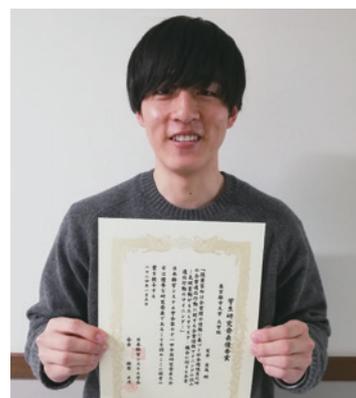
2023年6月17日に開催された日本システム・ダイナミクス学会JSDカンファレンス2023にて、環境学部・環境経営システム学科の岡田公治教授が、研究室大学院学生2名（鈴木里奈さん、柳橋航太さん）と連名で「ビジネス環境シミュレータを構築するためのパターン言語の検討」を発表し、優秀発表賞を受賞しました。これまで岡田公治研究室では長年にわたり、ビジネス環境シミュレータ構築の基礎として、ビジネスの場のメカニズムを究明し知識体系化を図る研究に取り組んできました。本発表は、それらのメカニズムを知識体系化する際の独自アイデアを、シミュレーション研究の有識者たちに問い掛けたものであり、高い評価を得られて大変光栄です。



岡田公治教授

日本経営システム学会全国研究発表大会にて環境情報学研究科・環境情報学専攻の実井貴哉さんが学生研究発表優秀賞を受賞

2023年11月19日に開催された日本経営システム学会第71回全国研究発表大会にて環境情報学研究科・環境情報学専攻・博士前期課程2年の実井貴哉さんが、「投資家向け企業開示情報に基づく社会環境変化時の企業適応行動に関する企業情報マイニングの試み ―気候変動がもたらすリスク・機会に対する企業適応行動のマイニング―」を発表し、学生研究発表優秀賞を受賞しました。企業開示情報（有価証券報告書等）から、社会環境変化時の企業適応行動と企業業績の関係性を機械的に抽出する手法の研究で、社会環境変化としてCovid-19感染症拡大を題材とした手法提案（学術誌 IIAI Letters on Business and Decision Science 誌に採録（2023年9月））に引き続き、この発表では気候変動を題材として抽出手法を提案し、業種（セクター）による企業適応行動の違い等を明らかにしました。



実井貴哉さん